

LAWSON



VALUE BOOK

第44期 報告書 2018年3月1日～
2019年2月28日

「私たちは“みんなと暮らすマチ”
を幸せにします。」



LAWSON

株式会社 ローソン

〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号
TEL 03-6635-3963
<https://www.lawson.co.jp/>

2019年5月発行
© 2019 Lawson, Inc. All rights Reserved.



本報告書に記載されている当社グループの現在の計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績などに関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績などは、さまざまな要因の影響を受け、これら見通しと大きく異なる可能性があります。

企業理念・ビジョン・行動指針

当社は、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」という企業理念のもとに、事業活動を行っております。

企業理念のもとに当社が目指すべきゴールイメージを明確化したビジョンを掲げるとともに、ビジョンを実現するための行動指針を定めています。

企業理念

私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。

ビジョン

実行一流企業へ。

全員でお客さまのニーズと変化を考えぬき、スピードをもって実行し、マチの暮らしにとって、なくてはならない存在になります。

行動指針

- 1 お客さま、マチ、お店を起点に考えます。
- 2 基本を徹底し、革新に挑戦します。
- 3 仮説、実行、検証の質とスピードを高めます。
- 4 規律のもとで自律し、チームでやりぬきます。
- 5 自己の成長を求め、仲間の成長を支えます。

連結業績ハイライト (単位:億円)

	チェーン全店売上高		営業総収入		営業利益	
2019年2月期	24,245	6.2%増 ▲	7,006	6.6%増 ▲	608	7.7%減 ▼
2020年2月期	25,200	3.9%増 ▲	7,270	3.8%増 ▲	608	増減なし ➡

	経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり配当金(円)	
2019年2月期	577	11.4%減 ▼	255	4.6%減 ▼	255	増減なし ➡
2020年2月期	545	5.5%減 ▼	180	29.6%減 ▼	150	105円減 ▼

※2020年2月期の数値は、2019年4月11日現在の予想値です。

IRカレンダー





代表取締役 社長

竹増 貞信

Profile

竹増 貞信
(たけます さだのぶ)

1969年生まれ。三菱商事株式会社入社、広報部、総務部兼経営企画部長業務秘書などを経て、2014年当社入社、副社長。2016年6月代表取締役 社長に就任、現在に至る。

2018年度連結業績

		前期比
▶ 連結営業利益	608億円	92.3%
▶ 連結経常利益	577億円	88.6%
▶ 連結当期純利益	255億円	95.4%

2018年度の連結業績について

当社は、2018年度を通じて、企業理念である「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」の具現化を目指し、事業活動を展開してまいりました。

国内コンビニエンスストア事業は、1,067店オープンし、400店クローズした結果、667店舗増加し、2019年2月末の店舗数は14,659店となりました（なお、中国の店舗数の拡大もあり、海外店舗数は614店舗増加の2,210店となりました）。これらの結果、連結チェーン全店売上高は、2兆4,245億円（前期比106.2%）、連結営業総収入は7,006億円（同106.6%）と、それぞれ前期を上回りました。

しかしながら、競合他チェーンに加え、業界の垣根を越えた競争が引き続き厳しいなか、客数が前期比で下回ったことなどにより、国内ローソン事業の既存店売上高（チケット・ギフトカード等の影響を除く）は、前期比99.5%となりました。一方、客単価については、夕夜間強化の取り組みが奏功したおにぎりや弁当、生活支援強化により品揃えを拡充してきた日配食品や冷凍食品などが好調だったことから、前期の水準を上回りました。

利益面では、成城石井やエンタテインメント事業の利益貢献などがありましたが、店舗でのオペレーションの効率化を図る次世代システムへの投資や、ローソン銀行の立ち上げにかかる費用の計上、店舗での廃棄代の一部負担を主とした加盟店支援費用の増加などにより、連結営業利益は608億円（前期比92.3%）となりました。なお、期初の営業利益計画に対しては、既存のITシステム関連を中心とした経費削減などもあり、7億円上回りました。

2019年度の重点政策について

2019年度は「1000日全員実行プロジェクト」による3年間の基礎固めを踏まえ、国内コンビニエンスストア事業では、さらなる夕夜間の品揃え強化、生活支援強化を展開します。また、デジ

タル技術を活用し、引き続き、店舗でのオペレーションの効率化に取り組むなど、加盟店支援を強化しつつ、お客さまとのコミュニケーションの場でもある、全国の店舗網が持つ価値の最大化を目指してまいります。

まず、商品展開としては、時間帯やターゲット別に生活シーンを想定したオリジナル商品や冷凍食品などを強化し、圧倒的な美味しさを追求していきます。また、美味しさだけでなく、「塩分控えめ」「糖質コントロール」「添加物削減」の3つの健康基軸をベースとしたメニュー展開により、お客さまに満足していただける売場づくりを徹底してまいります。さらに、マチカフェアイスコーヒーに使用するプラスチック容器の紙容器への変更など、環境に配慮した商品開発にも努めてまいります。

また単店舗オーナーや複数店舗経営オーナー、そしてマネジメントオーナーと、きめ細かく連携することにより、店舗における問題解決に取り組めます。特に人手不足対策については、加盟店業務の省力化や自動化を推進するとともに、クルーさんなど人材確保のための支援をさらに強化

2019年度の利益計画・配当について

2019年度の通期計画につきましては、国内コンビニエンスストア事業において既存店売上高前年比100.5%、総荒利益率で前年比+0.2%ポイントの改善を目指します。一方で、加盟店での人手不足対策として、店舗でのオペレーションの効率化、省力化支援のための投資を見込み、連結営業利益は前期と同等の608億円とします。また、連結当期純利益につきましては、加盟店支援の一つとして、より収益性の高い店舗オーナーへの転換を促進させるべく、収益性が低い店舗の整理などを見込み、180億円（前期比70.4%）を計画します。

2018年度の年間配当金につきましては、期初公表の

1株255円となりました。今後につきましては、安定的に1株当たり年間150円を下限としたうえで、連結配当性向50%を目標として配当金を支払う方針とし、2019年度の配当予想につきましては、株主重視、資本効率の重要性の認識は変わりませんが、当期純利益計画が減益であることに加え、今後も加盟店支援に向けた投資などを継続していくために、1株当たり150円を予定しています。

2019年度は、前年度に全店導入した自動釣銭機能付きPOSレジを利用し、お客さまがバーコードを読み取り精算する「セルフレジ」を、今年の秋までに全国展開します。また、お客さまがスマートフォンのアプリを通じて決済する「ローソンスマホレジ」などを推進することにより、レジ業務にかかる店舗の負担を軽減し、混雑緩和など、お客さまの利便性も向上させてまいります。さらに、先端デジタル技術を使った継続的なイノベーションに取り組み、新しいローソンの事業基盤の構築にチャレンジしてまいります。

一方、2018年10月に開業したローソン銀行では、ATM事業を中心に収益を拡大させるため、ローソン店舗外へのATM設置や、地域金融機関との提携を増やすなど、集客力の向上を図ります。併せて、金融関連事業として、着実に進むキャッシュレス社会に向けたさまざまな手段での決済の可能性を模索していきます。海外事業におきましては、中国を中心に海外展開を進め、グループ全体での事業拡大を目指してまいります。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、引き続きご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ローソンは、これからも「美味しく健康」な商品を開発し、皆さまにお届けします。

ローソンは、野菜を食べよう、糖質コントロールや添加物削減など独自に定めたテーマに沿って、健康関連商品の開発を進めています。これまで、「糖質を抑えたブランパンシリーズ」や、「野菜を多く摂れる「もっと!野菜」シリーズ」など、さまざまな健康関連商品を発売してきました。

ローソンは今後も、「美味しく健康」な商品の開発・販売を進めてまいります。

2019年度「美味しく健康」へのチャレンジ

- 1 塩分控えめ : 醤油での“美味しい減塩技術”を導入したメニューの拡大
- 2 糖質コントロール : 主食・軽食での糖質をおさえたメニュー展開
- 3 添加物削減 : 削減ニーズの高い添加物よりカット推進

より美味しく健康志向のロカボ商品



糖質量 27.0g (1食あたり)
1食分の野菜が摂れる
しば漬けとオクラのネバネバご飯
(野菜入りご飯) 税込 498円

鶏そぼろ・筍・人参・大根・マンナン・こんにやくを混ぜ込んだご飯に、しば漬け・オクラ・とろろ・納豆をあわせて食べる1食分の野菜^{*3}が摂れる弁当です。



糖質量 39.6g (1食あたり)
1食分の野菜が摂れる
中華あんかけ炒飯 税込 530円

マンナン・鶏そぼろ・筍・玉ねぎ・玉子を混ぜた炒飯に、オイスターソースを使用した中華あんであわせた野菜をかけて食べる1食分の野菜^{*3}が摂れる弁当です。



糖質量 38.1g (1食あたり)
1食分の野菜が摂れる
8品目野菜と牛そぼろピビンパ丼
(野菜入りご飯) 税込 498円

鶏そぼろ・筍・人参・大根・マンナン・こんにやくを混ぜ込んだご飯に、牛そぼろ、ほうれん草・大根・もやし・人参ナムル・白菜キムチをあわせたピビンパ丼です。1食分の野菜^{*3}を摂ることができる仕立てです。



糖質量 31.6g (1食あたり)
1食分の野菜が摂れる
パリパリ麺の皿うどん 税込 498円

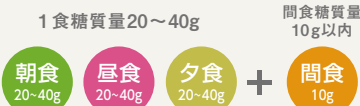
難消化性澱粉配合のパリパリ食感の揚げ麺に、鶏ガラスープ、オイスターソースなどの濃厚な旨みを加えた塩味のあんをあわせて食べる1食分の野菜^{*3}が摂れる皿うどんです。
注)北海道、九州、沖縄県での発売はありません。

ロカボで健康、始めませんか

ローソンでは、高齢化社会や健康志向ニーズの高まりなど、社会の変化に対応し、2012年から“美味しく健康”を軸にした“ロカボ・健康志向商品”の開発に本格的に取り組んでいます。2019年3月からは、一般的な弁当・調理麺と比較して糖質量が半分以下の弁当や調理麺、素材本来の味わいが楽しめる“化学調味料不使用”の成城石井オリジナル冷凍食品5品を全国のローソン店舗^{*1}で発売いたしました。

「ロカボ」とは?

ロカボとは、糖質量を1日70g~130g(1食20~40g + 間食10g)を目処に摂取する、緩やかな糖質コントロールをする食生活のことです^{*2}。糖質は三大栄養素の「炭水化物」に含まれていて、血糖値を上げる原因になっています。適正な糖質摂取を心がけることで血糖上昇を抑えることができます。



「ロカボマーク」とは?

「ロカボマーク」とは、食・楽・健康協会が掲げている、世の中の人々に「おいしく、楽しく食べて、健康に」なっていただきたいという理念のもと、「おいしく楽しく適正糖質=ロカボ」をさらに普及させていくために作成されたマークです。



ローソンでは、商品パッケージの表面(オリジナルロゴ)や裏面(栄養成分表示)への糖質量の記載や、「ロカボ商品」であることを伝える「ロカボマーク」の商品パッケージへの記載など、皆さまに「ロカボ商品」であることをわかりやすく伝えるための取り組みを実施しています。

「化学調味料不使用」の成城石井 desica ブランドの冷凍食品



成城石井 desica
北海道産豚肉の肉まん 税込 518円

国産玉ねぎと食感の良い北海道産の粗挽き豚肉を、北海道産小麦粉を使用したふくらとした口どけの良い生地で包み込みました。



成城石井 desica ごろっと煮豚と有機筍の中華ちまき 税込 496円

煮豚、有機栽培の筍、国産もち米を特製ソースで味付けし、工場一つ一つ手で包み込み、蒸し上げた中華ちまきです。竹皮で包み込むことで、温めた際に、芳香な香りをお楽しみいただけます。



成城石井 desica XO 醤の旨味 担々麺 税込 388円

中細麺に、干し海老、XO 醤、香ばしい胡麻の風味が感じられるスープとあわせて食べる担々麺です。



成城石井 desica 海老と吊るし直火焼チャーシューの炒飯 税込 355円

ご飯、玉子、海老、吊るし直火焼チャーシューを入れて炒めた炒飯で、あおり炒め製法で仕上げたパラッとした食感のご飯をお楽しみいただけます。



成城石井 desica 山形県産三元豚の小籠包 税込 355円

オイスターソースで味付けした山形県産三元豚を、こだわりの小麦粉を使用した皮で包み込みました。もっちりつるつるとした皮の食感と、中からあふれ出る豚肉のうまみと肉汁をお楽しみいただけます。

*1 ローソンストア100を除く *2 一般社団法人 食・楽・健康協会より

*3 1日あたりの摂取量の目標350g以上(厚生労働省「健康日本21」より)

連結損益計算書のポイント (単位:百万円)

	前期 (2017年3月1日~2018年2月28日)	当期 (2018年3月1日~2019年2月28日)	増減率
(チェーン全店売上高)	(2,283,621)	(2,424,541)	6.2%
営業総収入	657,324	700,647	6.6%
売上原価	181,374	198,040	9.2%
営業総利益	475,950	502,607	5.6%
販売費及び一般管理費	410,129	441,825	7.7%
営業利益	65,820	60,781	△7.7%
経常利益	65,141	57,700	△11.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	26,828	25,585	△4.6%

ポイント

1

店舗数の増加により、チェーン全店売上高、営業総収入が過去最高に

主に国内コンビニエンスストア事業の店舗数の増加により、前期に比べチェーン全店売上高は6.2%増の2兆4,245億41百万円、営業総収入は6.6%増の7,006億47百万円と、過去最高となりました。

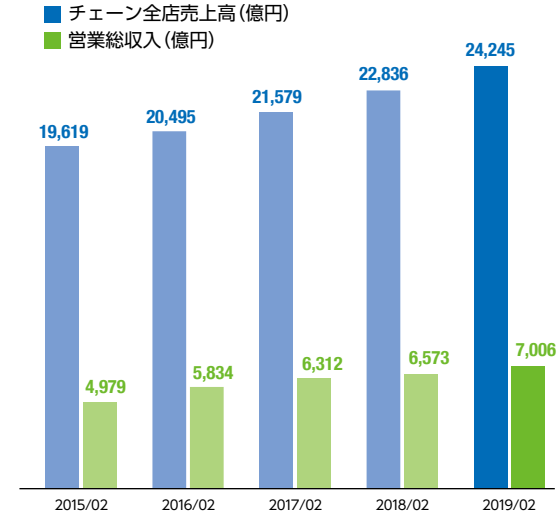
ポイント

2

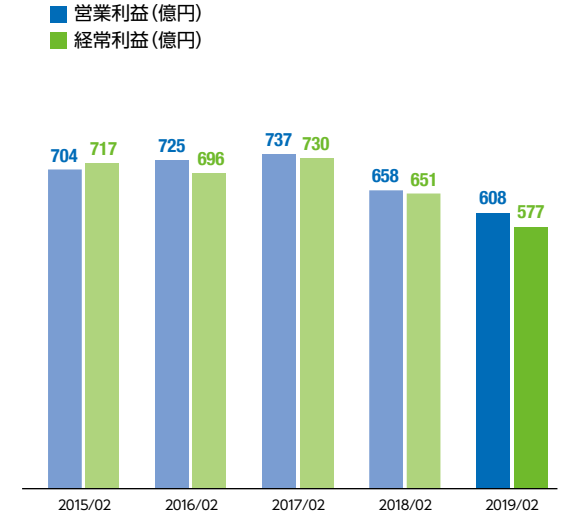
持続的成長に向けた先行費用の増加などが営業総収入の増加を上回り、営業利益は減少

店舗数増加により営業総収入が増加しましたが、次世代システムへの投資関連費用や新規事業である銀行業の開業段階の費用増加もあり、営業利益は前期に比べ7.7%減の607億81百万円となりました。

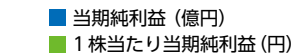
チェーン全店売上高・営業総収入



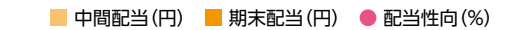
営業利益・経常利益



当期純利益・1株当たり当期純利益



配当金と配当性向の推移



連結貸借対照表のポイント (単位:百万円)

	前期末 (2018年2月28日現在)	当期末 (2019年2月28日現在)	増減額
流動資産	231,860	623,998	392,138
固定資産	668,395	718,491	50,095
有形固定資産	349,935	382,300	32,364
無形固定資産	100,197	106,672	6,474
投資その他の資産	218,262	229,519	11,256
流動負債	379,222	598,522	219,300
固定負債	239,587	461,985	222,398
純資産	281,446	281,982	535
総資産	900,256	1,342,490	442,234

ポイント

1

銀行業開業に伴う現金及び預金の増加などにより、総資産が増加

ATMへの充填金としての現金及び預金の増加、店舗数増加に伴う固定資産の増加により、総資産が前期末に比べ4,422億34百万円増加し、1兆3,424億90百万円となりました。



より詳細な財務情報をご希望の方は、当社ウェブサイト「IR情報」をご覧ください。

<https://www.lawson.co.jp/company/ir/>

ローソン IR 検索

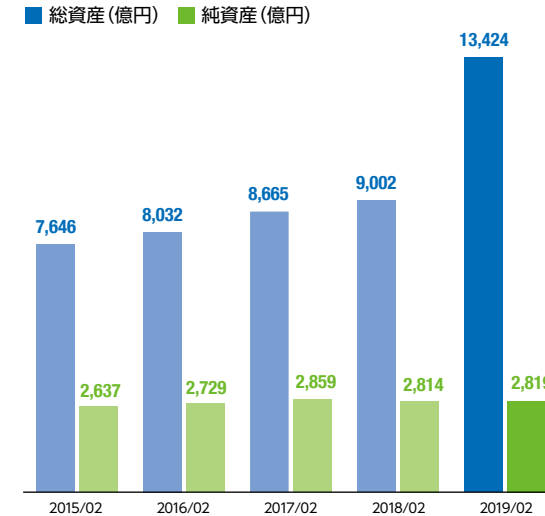
ポイント

2

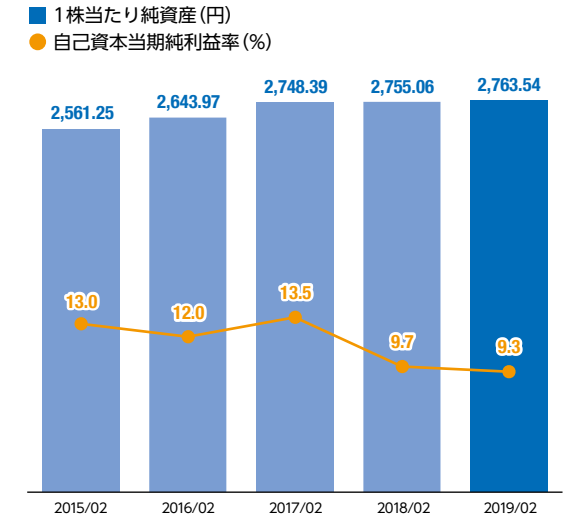
銀行業開業に伴う借入金の増加などにより、負債が増加

銀行業の必要資金を借入により充てていることによる借入金の増加、リース債務や預り金の増加により、負債合計が前期末に比べ4,416億98百万円増加し、1兆605億7百万円となりました。

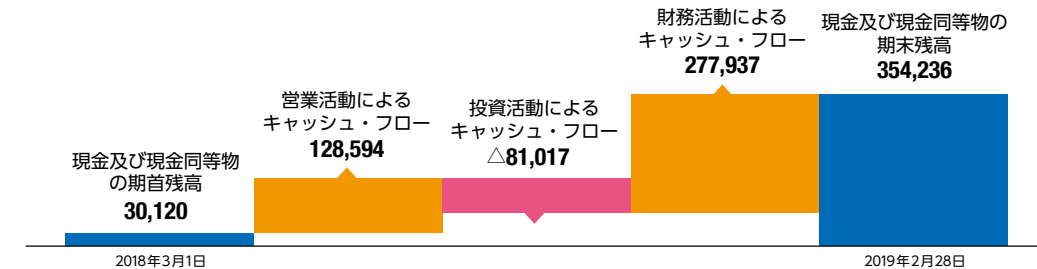
総資産・純資産



1株当たり純資産・自己資本当期純利益率(ROE)



連結キャッシュ・フロー計算書のポイント (単位:百万円)



現金及び現金同等物に係る換算差額及び連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

ポイント

1

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に未払金、売上債権、預り金の増減額影響などにより、前期と比べ146億56百万円収入が増加し、投資活動によるキャッシュ・フローは、事業譲受による支出の減少や投資有価証券の売却による収入の増加などにより、前期に比べ101億91百万円支出が減少しました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入の増加、短期借入金の純増減額影響などにより、前期と比べ3,391億76百万円収入が増加しました。

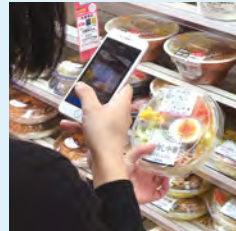
TOPICS

レジ待ちなし!お持ちのスマホで支払い完結 「ローソンスマホレジ」導入店舗拡大

「ローソンスマホレジ」は、事前にスマートフォン(以下、スマホ)にローソン公式アプリをダウンロードし、お客さま自身が商品バーコードをスマホのカメラで読み取ることで、店内のどこでも決済できるサービスです。

混雑時のレジ待ちにおけるお客さまのストレス軽減と店舗でのレジ対応の省人化による生産性向上を目的に2018年4月からサービスを開始し、首都圏を中心に展開しています。2019年2月から近畿・中国・九州エリア、3月から北海道・東北・中部エリアの大都市圏の店舗を中心に導入店舗を拡大しています。

ローソンは、お客さまがより便利にストレスなくお買い物いただけるよう、さまざまな決済手段を導入しています。今後もお客さまにとってより使いやすく便利なサービスを目指してまいります。



中国出店が加速、店舗数2,000店を突破

ローソンは1996年に現地子会社(上海ローソン)を設立し、中国初の日系コンビニとして上海市に進出しました。その後、重慶市(2010年)、大連市(2011年)、北京市(2013年)と出店エリアを拡大する一方、2014年からは現地子会社と地場小売企業とのメガフランチャイズ契約を推進し、上海ローソンの出店エリアと店舗数の拡大を加速させました。また、エリアライセンス契約によって湖北省武漢市(2016年)、安徽省合肥市(2018年)へも出店。そして2019年1月、中国における店舗数が2,000店を突破し、2017年2月に1,000店舗を突破した中国の店舗数は約2年間で2倍となりました。

ローソンは今後も中国において、上海・重慶・大連・北京の4子会社で培ったブランド力と運営ノウハウを活用し、各地でのメガフランチャイズやライセンス契約による出店を中心に、2020年までに3,000店規模に拡大する予定です。

中国における出店状況(店舗数は2019年2月28日時点)

	出店開始	店舗数
上海市およびその周辺地域(上海市、浙江省、江蘇省)	1996年 7月	1,227
重慶市	2010年 7月	198
遼寧省(大連市)	2011年11月	146
北京市	2013年 8月	108
湖北省(武漢市)	2016年 5月	308
安徽省(合肥市)	2018年 7月	20
中国合計(5省3直轄市)		2,007 店舗

中国における店舗数伸長

1996年 7月	中国(上海市)に1号店オープン
2003年 1月	中国(上海市)100店舗達成
2014年 12月	中国500店舗達成
2017年 2月	中国1,000店舗達成
2019年 1月	中国2,000店舗達成

SDGsに対応する取り組み

ローソンは、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」という企業理念に基づき、コンビニエンスストア事業を中心としたローソングループのビジネスを通じ、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に関連する社会的課題の解決に全社を挙げて積極的に取り組むべく、「SDGs委員会」を設置しました。

SDGs委員会においては、SDGsがゴールとする2030年を見据え、ローソングループとして取り組むべき課題・項目を明確化するとともに、定期的に進捗を確認することで、課題解決に向けた取り組みを推進し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。



2015年9月、国連本部で開催された「持続可能な開発サミット」にて、「持続可能な開発目標(SDGs)」が193の加盟国による全会一致で採択。2030年までに地球規模で解決すべき17の目標と169のターゲットが掲げられました。ローソンも経済、社会、環境、人権、ガバナンスといった分野で積極的に取り組んでいきます。

“悪魔的”にやみつきに! おにぎり・焼うどん・ベーカリーで4品を発売

ローソンで2018年10月から販売を開始した「悪魔のおにぎり」は、白だしで炊いたご飯に、天かす、青のり、天つゆなどを混ぜ合わせたおにぎりです。このレシピは、“悪魔的に”やみつきになる美味しさとして、テレビやSNSなどで話題になりました。

2019年は、これまでの商品にごま油とねぎを加えることで、さらに風味を良くしました。また、天かす、あおさなどを使用した焼うどんとベーカリーも発売しました。さらに、「やみつきになる」商品としてSNSで話題のチーズと砂糖を乗せトーストしたベーカリーも発売しました。

ローソンはこれからも、美味しさに加え、お客さまがワクワクされる楽しい商品を発売してまいります。



悪魔のおにぎり(税込110円)

白だしで炊いたご飯と天かす、天つゆ、あおさなどを混ぜ合わせたおにぎり。今回はさらに、ごま油とねぎを加え、さらに風味を良くしました。

悪魔の焼うどん(税込399円)*

醤油、みりん、砂糖、かつおと昆布の合わせだしなどで味付けした焼うどんに、あおさのり入り天かすを合わせました。サクッとした食感を楽しんでいただけます。
*2月11日で終売(一部エリアで再販売あり)



悪魔のパン(税込150円)

薄焼きのパンの上に、天かすとあおさを乗せ、天つゆ入りソース、マヨネーズをかけました。

悪魔のトースト(税込125円)

しっとり・ふんわり食感の食パンに、2種類のチーズクリームと、シュレッドチーズをトッピングし、さらにグラニュー糖をかけて焼き上げました。



会社概況

会社概要 (2019年2月28日現在)

社名	株式会社ローソン
所在地	〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号 TEL.03-6635-3963
設立	1975年4月15日
資本金	585億664万4千円
決算期	毎年2月末日
配当基準日	毎年2月末日、8月末日
社員数	4,551人(単体)
事業内容	コンビニエンスストア「ローソン」「ナチュラルローソン」及び「ローソンストア100」のフランチャイズチェーン展開

役員 (2019年5月21日現在)

代表取締役社長	竹増 貞信
取締役	今田 勝之
取締役	中庭 聡
取締役(社外)	大園 恵美
取締役	京谷 裕
取締役(社外)	林 恵子
取締役	西尾 一範
取締役(社外)	岩村 水樹
常勤監査役(社外)	高橋 敏夫
常勤監査役	郷内 正勝
監査役(社外)	辻山 栄子
監査役(社外)	五味 祐子

グループ企業 (2019年2月28日現在)

主な子会社	主な関連会社
(株)ローソン山陰	(株)ローソン沖縄
(株)ローソンアーバンワークス	(株)ローソン南九州
(株)ローソンストア100	(株)ローソン高知
(株)SCI	
(株)成城石井	
(株)ローソンエンタテインメント	
ユナイテッド・シネマ(株)	
羅森(中国)投資有限公司	
上海羅森便利有限公司	
上海楽松商貿有限公司	
上海恭匯貿易有限公司	
浙江羅森百貨有限公司	
重慶羅森便利店有限公司	
大連羅森便利店有限公司	
羅森(北京)有限公司	
北京羅松商貿有限公司	
Saha Lawson Co., Ltd.	
(株)ローソン銀行	
(株)ベストプラクティス	

当社ウェブサイトからも
さまざまな情報をご覧いただけます。



<https://www.lawson.co.jp/>

株式情報 (2019年2月28日現在)

株式の状況

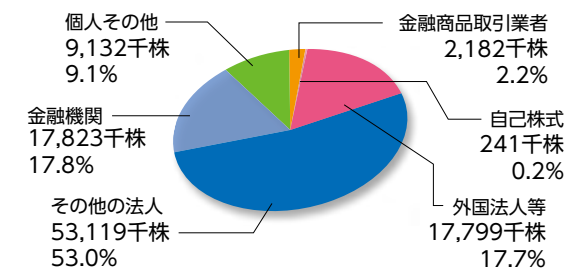
発行可能株式総数	409,300千株
発行済株式の総数	100,300千株
単元株式数	100株
株主数	33,658名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1. 三菱商事株式会社	50,150	50.1
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,200	4.2
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,392	3.4
4. 株式会社NTTドコモ	2,092	2.1
5. STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	1,739	1.7
6. JP MORGAN CHASE BANK 380655	1,287	1.3
7. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	977	1.0
8. 日本証券金融株式会社	952	1.0
9. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	917	0.9
10. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	906	0.9

*上記の持株比率は、自己株式241,897株を控除して算出しております。

所有者別分布状況



株主名簿管理人の連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
(郵送先)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式のお手続きについてのご注意

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求、配当金振込口座の指定その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、ご不明な点は口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座の株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。
- 除斥期間満了前の未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行でお支払いいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主さまからお取引のある証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要があります。詳しくは、お取引のある証券会社等へお問い合わせください。

公告の方法

電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

● 公告掲載のURL

<https://www.lawson.co.jp/koukoku/index.html>